

在京きたしおばら会だより

発行 在京きたしおばら会事務局

北塩原村総務企画課企画室内 TEL0241-23-3112

福島県耶麻郡北塩原村大字北山字姥ヶ作 3151 番地

在京きたしおばら会が発足しました。



平成27年12月20日(日)、東京都千代田区の「東京グリーンパレス」において、「在京きたしおばら会」の設立総会並びに設立記念パーティーが開催され、北塩原村の「応援団」が誕生しました。総会においては、

会員29名が出席し、初代会長に佐藤渉氏(早稲沢出身)を選出し、平成27年度の事業計画を採択しました。設立記念パーティーには会員の皆様をはじめ、小椋北塩原村長及び村の幹部職員、地元村議会議員、岩城光英法務大臣をはじめとする地元選出の国会議員、福島県東京事務所長、裏磐梯観光大使らのご来賓を含め、約70名のご出席をいただき、ふるさとの話題で盛り上がり、初めての北塩原の集いを祝いました。テーブルには、村産の材料で作った北塩原村オリジナル地酒「佳き酔 歌磐梯」、裏磐梯産の「じゅんさい」、裏磐梯高原で採れた「花嫁ささげ」の缶詰、村の新しい特産品である「会津山塩」が振舞われました。



法務大臣 岩城光英先生の祝辞



記念パーティーの様子



北塩原村の特産品の数々



普天間かおりさん(裏磐梯観光大使)を囲んで

佐藤渉会長の挨拶(設立記念パーティーにて)

早稲沢地区 佐藤米穀店の三男坊で、間もなく67才を迎えます。図らずも、発足時の要職である会長職を任じられました。先人の方々をさし置き、身が引き締まる思いでございます。まずは、向後3年を目途に、在京きたしおばら会の目的である「会員相互の親睦と対話を図りながら、村の活性化と発展向上に寄与する」ことを念頭に、微力ではありますが精一杯努めさせていただきます。皆様のご協力をお願い致します。私は、昭和39年に桧原中学校を卒業して以来51年、村を離れこれまで生きてきました。喜多方市で4年ほど学んだあと、東京のとある会社で働き、定年まで勤めることができました。これも三つ子の魂100までと育てられた、きたしおばら村に感謝の気持ちで一杯です。今でも、年に10回ぐらいは村に帰り、野菜づくりのお手伝いをさせてもらっているところです。その度に“ああやっぱりこの村は空気が新鮮で、湖や山々が四季折々非常に美しく、また住んでいる方々がやさしい人ばかりでいい村だなあ”と感動します。それを、事あるごとにいろんな方に説明もし、時には村にお誘いをしております。そのような村に少しでも力を出せる!! こんなうれしいことはないと思っています。

今後、ますます会員の拡大を図っていき、この会が皆さまにとって有意義なものとなることを祈念いたします。



小椋厚氏の発起人代表挨拶（設立総会にて）



私たち発起人は、この会設立構想に当たって2つのコンセプトを掲げました。一つは、「首都圏に住む同胞の皆さんとのつながりを創る」ということです。現在首都圏に居住する北塩原村出身者はおよそ500人を超えるのではないかと思います。少年時代を同じ風土、同じ伝統の中で、貧しく苦しい環境に耐えて一生懸命生きてきた私たちは、根本においては兄弟のようなものです。その兄弟のような同胞とつながっていききたい、と強く思ったわけです。もう一つは、「心のふるさとである北塩原村とのつながりを創る」ということです。ふるさとは、私たちにどのような影響を与えてくれたでしょうか。卑劣に屈しない強靱な意志と、逆境に耐え抜く根性を植え付けてくれたと思っています。ですから、その心のふるさと自体が、いつまでも元気でいて欲しいし、生き生きと輝いて

いてもらわなければなりません。しかしながらそのふるさは、世帯の減少とともに過疎化し、地区によっては極めて深刻な状況にあると聞きます。“そのようなふるさとに私たちで何かできることはないか” “どんな小さなことでもいい、元気になるような策はないだろうか” それを模索するにはどうしてもふるさとの情報が必要になります。そのために村役場と情報を共有してふるさととつながっていく必要があると考えました。幸いにも現村長には当初の段階から関心を寄せていただき、叱咤激励を受けながら設立まで予算をはじめ軌道に乗るまでの予算を、村の承認を得て確保してくださいました。更にまた、役場総務企画課の皆さんの全面的な協力を得て、本会の設立総会ならびにこれを記念しての盛大なパーティーを開催できる運びとなりました。誠にありがとうございます。誠にありがとうございます。

島崎藤村の詩歌の中に私の好きな詩があります。たった三行からなる詩です。

血がつながるふるさと 心がつながるふるさと 言葉がつながるふるさと 皆様のご協力をお願いいたします。

北塩原村長の総会挨拶（設立総会にて）

福島県を襲った東日本大震災、原発事故発生から4年と9ヶ月が経過しましたが、震災以前の状態までの完全な復興には至っていない状況にあります。村では、農業施策や観光誘客事業など、引き続き風評の払拭に全力で取り組み、克服に努めているところです。また、皆さんご承知のとおり全国的に人口減少が問題となっており、北塩原村においても人口が3,000人を切るなど、地方創生として人口減少対策と地方の活力向上に取り組んでいるところです。このような中、本日、在京きたしおばら会の設立総会を開催することが出来ました。北塩原村出身の皆様とこうして顔を合わせ、ここ東京で開催できること、大変感激しております。今までは、このような北塩原村出身の在京の会がありませんでしたので、首都圏に住んでいる皆さんとの意見交換の場がございました。今後は、この会を通して定期的に意見交換をしたいと考えております。



都会に住んでいる方にしか見えない村の景色もごさいます。良い意見、辛口な意見、様々なご意見を踏まえ、今後の村政発展へとつなげてまいります。皆様のご協力をお願いいたします。

◆第1回幹事会（役員会）が開催されました。

平成28年1月29日（金）、東京都神楽坂の「PORTA 神楽坂 6階 理窓会倶楽部」において、在京きたしおばら会第1回幹事会（役員会）が開催され、今後の在京会活動についての打合せを行いました。会議では下記の事項について話し合われました。

<出席者 佐藤会長 小椋副会長 岡安副会長 小椋会計監査 佐藤書記兼会計 計5名>

- ① 会員募集について → 募集活動は随時行う。
- ② 会報の内容（構成）について
- ③ 在京会の名刺について
- ④ アンケート調査について
- ⑤ 在京会の事業について（下記のような意見があった）
 - ・バスツアーの実施 ・在京会で村に記念植樹
 - ・会員・実行委員の充実 ・地元北塩原村で蕎麦会を開催
 - ・地元でのボランティア活動 ・在京会の基金を設置 ・親睦会の開催

◆第2回幹事会（役員会）開催予定

日時 平成28年2月24日（水）15:00～ 場所 メタウォーター（株）会議室
（東京都千代田区神田須田町一丁目25番地 JR神田万世橋ビル）
議題 平成28年度事業計画（たたき台）作成 アンケート調査結果について

在京きたしおばら会

会員募集中

北塩原村のホームページでも会員申込書をダウンロードできます。

<http://www.vill.kitashiobara.fukushima.jp>

佐藤渉会長からのお願い！！

会員の皆様、新しい年も元気にスタートされたことと思います。昨年12月に発足したばかりの会ですが、先ずは会員の増強が肝要と考えております。会員の皆様の、ご子息、ご息女、ご親戚の方々、同級生そしてご友人の皆様にお声を掛けて下さり、会員増強にご協力をお願い致します。